

金沢経済大学同窓会誌

ますな

第4号

1993. 10.

発行所／金沢経済大学同窓会事務局

〒920 石川県金沢市御所町丑10

事務局 TEL (0762) 51-9876 (直通)

大 学 TEL (0762) 52-2236

発行責任者：中田邦雄 編集発行人：菅村洋一

同窓会会員 現在 8,384名

稲置学園 理事長
金沢経済大学 総長

稲置繁男先生のご逝去

稲置学園理事長の稲置繁男氏は去る六月六日午後八時五十九分、呼吸不全のため金沢市南新保町の県立中央病院で死去されました。八十三歳。奈良県出身。

昭和七年金沢で高等簿記学校を創立、同二十五年に学校法人実践商業高等学校に組織変更し、理事長、校長に就任。同三十六年に稲置学園と改称し、理事長に就任した。同四十二年に

藍綬褒賞受賞、同五十四年に北國文化賞、勲三等瑞宝章を受けた。金沢経済大学・星稜女子短期大学・星稜高等学校・星稜中学校・星稜幼稚園の総長を兼任し、七尾短期大学理事長、県私立学校審議会長など務めた。



開式に先立って、中西陽一県知事から石川県より感謝状が、また山出保金沢市長から金沢市文化賞受賞の故人に贈られる



石川県の私学振興に尽くした稲置学園理事長の稲置繁男先生が、葉石効無く六月六日午後八時五十九分、肺炎腫のため死去された。享年八十三歳。
学園葬は、くしくも稲置理事長の誕生日であった六月十七日に稲置記念講堂でしめやかに営まれ、県内外の教育関係者はもとより、経済界各企業の代表者や各種団体の関係者、教え子、学生、生徒ら約二千人が参列し、故人の遺徳をしのび、めい福を祈った。



「景仰の証」が、喪主の稲置慎也氏に贈呈された。
葬儀は日蓮宗の仏式で行われ、読経・導師引導に続き、弔辞が述べられた。葬儀委員長の鈴木透星稜女子短期大学学長をはじめ、中西陽一石川県知事、加藤晃石川県私立学校連合会代表、学生・生徒代表の高梨佳和金沢経済大学学友会会長からそれぞれ生前を振り返り、故人の



教育振興に尽力した功績をたたえた。弔電披露の後、参列者全員が一人ひとり稲置理事長の靈前に献花し、故人との別れを惜しみ、最後に葬儀副委員長の小西滋人金沢経済大学学長から参列者に会葬のお礼の挨拶がなされ、学園葬を終えた。



つきがは
月ヶ瀬の

うめのはな
梅の花片 舞ひ来たり

ごしよ
御所の里にて 浄き実結ぶ

(高梨佳和君・弔辞より)

稲置繁男理事長を悼んで

同窓会会長 中田邦雄

昨年の七月、自伝「家庭と徳育が人間をつくる」の出版記念会。十月の学園創立六十周年記念祝賀会。そして最後の出席となりました十月十一日の同窓会総会・懇親会と元氣なお姿でした。

今年に入ってから、三月十三日、大学の卒業式に理事長のお顔はなく、午後の謝恩パーティとの合間に病院へお見舞いした時には、「こんな姿になってしまった」と話しておられました。

その後、五月二十一日の評議員会では、元氣なお姿で「夜間の大学院をつくろうか」と、大学の未来について、その夢を語っておられたその日から二週間余りで亡くなるうとは、本当に信じられませんでした。

人には、それぞれの思い出があり、歴史があります。その人生の中で大きな影響を受けた人、与えた人がいると思います。が、私にとって大きな影響を与えてくれた人が理事長でした。

稲置繁男先生のご逝去を悼んで

金沢経済大学学長 小西滋人

昭和四十二年、大学に入学したその日の告辞から始まったのです。人生の出合いとはこう言うことをいうのでしょうか。大学時代、学友会の運営等で意見の対立を沢山しましたが、その時の実践的な解決方法には感心したものです。

卒業にあたり、図らずも同窓会会長という重責を担い、十数年間いろいろと大変でありましたが、十五周年事業、二十年事業と役員をはじめ会員・学園関係者等のご協力により順調に歩み始めたように思います。

今、学園の四十年・五十年・六十年史を編みながら、同窓会の四十年・五十年後を思い描いておられます。

これまでの理事長先生のご恩に感謝申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

学園・大学、同窓会のさらなる発展を祈念して、稲置繁男理事長先生への追悼の言葉といたします。

「必ず再度お元氣になられる」

という、ご親族はもとより全教職員の間にも空しく、本学理事長・総長、故稲置繁男先生が、本年六月六日帰らぬ人となられました。まさに巨星落つた感があり、地域の教育界にとって、稲置先生を失った損失の大きさは計り知れないものがある。筆者はかねてより、本学の三つの誇りととして、その筆頭は本学創立者で六十年間『教育は愛』を實踐されてきた、稲置先生その人の存在とその建学の精神を、また第二はそのもとに生涯の使命を託して精勤する多数の教職員を、さらに第三としては本学を卒業して胸を張って社会の第一線で活躍している八五〇〇名に及ぶOB諸君を挙げてきた。本学にとって、筆頭の誇りを失うことは、癒し難い大きな悲しみである。心よりご冥福を祈るも

のである。

幸い亡き理事長先生のご遺志を最も色濃く継承されている稲置美弥子新理事長のもとで、われわれ教職員は、他に例を見ないほど強い協関係で結ばれており、建学の精神のもとで学園発展のために努力を惜しまない覚悟である。しかし同時に、本学の成果を社会が評価しその将来の発展の鍵を握るのは、ほかでもない先に第三の誇りとして述べた「本学を卒業して本当に良かった」と確信して地域社会に雄飛している本学OB諸君のご活躍である。この「きずな」を礎として、OB諸君が力を合せてより豊かな人生を築いていただくことを祈念するとともに、諸君の青春の故郷、金沢経済大の発展に、力強いご支援を賜るようお願いしたい。

新理事長に

稲置美弥子氏推挙選任される

学園創設者、稲置繁男先生のあとをうけ、第二代理事長に稲置美弥子氏がさる六月八日の理事会において推挙選任された。氏は昭和十二年生れ、夫、星稜高校長敏夫氏逝去直後、昭和五十八年二月理事・評議員に就任、同年四月より本部総務課長の職も兼ね今日に至った。

理事長就任の席上「創設者の遺志をつぎ、学園発展のため尽したい」と決意のほどを強く語った。



活躍を期待します！ 新任常任理事



企画委員 松浦 勉
石川県観光物産館

『大学のときは良かった』は、卒業生の誰もが感ずる思いであります。縁あって同窓会のお世話役を賜り微力ではありますが、お役に立てばと考えております。皆さん宜しくお願ひします。



総務委員 忠村 健司
株式会社水産

新しい役員としてメンバーに加わった訳ですが、先輩役員に教わりながら、一人でも多くの卒業生が『関心ある同窓会』と感じますように微力ながら頑張ります。

第二回ゴルフコンペ参加者募集

ゴルフ同好会が発足して二年目ですが、期を越えて和気藹々のうちに第三回目を開催することとなりました。縦のつながりや横のつながりを広めあって、お互いの研鑽の場としても楽しみを交えた集いです。左記要領にて開催いたしますので、多数のご参加お申し込みをお待ちしています。

と き：平成五年十月二十四日（日）

午前六時三十分集合

ところ：白山カントリークラブ（泉水コース）

申込先：日本エージェンシー（株）内

鳥居 茂 あて ㊞四三―六六七八

組数に限りがありますので、お申し込みはお早め！



ふりかえれば

金沢経済大学
教授
沢 信 俊

昭和四十五年に着任して以来二十四回目の夏をむかえ、振り返って見ればおよそ四半世紀になろうとしております。

この間三度にわたって学園の歴史を編纂する機会を与えられました。着任早々で手元には充分な資料もないままに四苦八苦した『稲置学園四十年史』（昭和四十七年）の発刊にはじまり、二度目の『稲置学園の五十年』（昭和五十七年）は故稲置繁男先生の故郷の奈良県月ヶ瀬村へ一泊二日と旅行し、初めて先生の同行ということで緊張の連続ばかりが印象に残った取材旅行でしたが、ところどころで垣間見た先生の洒落な人柄を念頭において編纂しました。

最後は昨年十月の学園創立六十周年を記念して発刊された『稲置学園の六十年』ですが、六月に逝去された先生を偲ぶ時、

特に思い出されるのはこの編纂のため平成三年五月七日から二泊三日で再度月ヶ瀬村へ先生に同行して取材旅行に出掛けたことです。行き帰りの電車の中で始終話題の跡切れることなく話される先生、中奥家（中実家）の実兄や甥子さん、さらに私たちを温かく迎えてくれた月ヶ瀬村の人たちとの談笑で見せてくれたとおきの笑顔の先生、「おい、沢君。あの女、どや」と旅先で行き交う女性を見ては真顔で冗談を飛ばす先生……。普段の学園内では見ることが出来なかった数々の人柄を感じさせる場面を思い出すたびに、今は思い出として懐かしむだけでなく、先生が教えてくれた「愛と尊敬をもって一誠実に生きよ」という教訓を今後の心の糧としたいと思っております。



邂逅

金沢経済大学
事務局長
棒 田 實

「人生は出会いである、邂逅である」といわれている。

この世に生れて、いついかなるとき、いかなる偶然によって誰と出会ったか。あの師に出会ったから、あの友と交際したから、自己の魂が深くゆり動かされ、そのことで自分の一生が大きな影響をうけて今日の自分がある。等々。そうした人生の一大事ともいふべき出会いの経験は誰しもあると思うが、振り返って運命の不思議に驚くであろう。このような邂逅は求めて得られるものではなく、まことに不思議な人生の宿縁によって結ばれるようである。

「袖ふり合うも他生の縁」という言葉がある。これは、現世で道行く時、見知らぬ人と袖が触れ合う程度のこと、前世（現世に生れてくる前にいた世）からの因縁による。という意であるが、本学で結ばれたことは

袖ふり合うような単純なものではない。それだけに結びつきを大切に、生涯忘れることができない人間関係をつくりたいものである。

今、本学の学生、教職員、卒業生、学園の関係者等の間には、目では見ることができないが、極めて意義深い心の絆が張りめぐらされているわけである。この絆は金沢経済大学と呼ばれるものの中心をなすものであり、大切なものである。これらの絆が縦横にしっかりと結びついてこそ金沢経済大学という「織物」がすばらしく織りあがっていくことであろう。

邂逅を生涯のものとして大切に育てていくことを通じて、絆を一層強く強いのにし、その「織物」が更に高く評価されるよう共々に努力を重ねたいものである。

金沢経済大学

卒業生の誇り



助野靴下(株) 社長
助野ニット(株)

小野 正裕

(I部第一回生)

同窓生通信

母校の発展には目を見張るものがあり大変嬉しく感ぜられます。

第一期卒業生として社会へ巣立って二十二年、在学中を顧みれば、やはりサッカー部の思い出が大半であり、創部仲間と苦勞して作ったグラウンド、アルバイトをして購入したゴールポスト、なかなか勝利の美酒を味わえずや々と四回生に初めて北陸私学リーグ優勝の感激と、今思えば部長であられた故山本前学長、厳しい監督であった宮口教授方からのご指導が現在の我々を育てていただいたと、深い感謝の念で一杯であります。

当社は靴下・ニットの生産、販売を致す会社であります。現在五百四十名、売上百七十六億の企業規模になりました。後輩の社員も多く全国七か所の支店、三か所の工場で皆頑張っています。私自身入社以来、外勤が多く、なかなか母校のお世話も出来ず大変申し訳ないです。先日久しぶりに小西学長が来社され、ゼミの生徒さん方と色々質疑応答が出来私にとっても大変楽しい時間を取らせてもらい、今後この様な機会をと願っています。

又、六月に母校のサッカー部が初の全国出場とのビッグニ

ユースが宮口先生から届き一段と喜びが高まります。

当社も今流行の「Jリーグ」ソックスをモノポリライセンスにて製造、販売をしています。これも金沢経済大学でのサッカーのご縁と八月の全国大会へ持参し、後輩の応援と今から楽しみです。

今年四月より社長という大役を拝命致しました。四十四才の若僧ですが、金沢経済大学の一期生として微力ながら母校の役に立てればと同時に、今後の発展と会員の皆様方のご健勝を

祈念いたします。

【会社概要】

所在地 富山県高岡市
資本金 三億七千万円
設立 昭和三十三年
従業員 五百四十名

昭和31年靴下専門卸売業として創業スタート、43年の東京都から始まり全国主要ブロック都市拠点に店舗を年次開設、48年より靴下製造工場部門をも別法人でスタートさせ製造・販売の一体化を計る。三年以内に年間二百億円の売上を目指している。

ほろり 創始人

助野靴下社長 小野 正裕氏(44)



高岡を一大産地に

活躍光る

金沢経済大学生

大学近況

空手道部

大河原靖貴 (2)

第19回北信越学生空手道個人選手権(型の部)
第37回全日本学生空手道選手権大会

柔道部

壁谷将照 (4)

第12回北信越学生柔道体重別選手権(95Kg超級)
平成5年度正力松太郎杯全日本学生柔道体重別選手権大会

硬式テニス部

鈴木猛史 (3)

北信越学生テニストーナメント大会
全国学生テニス選手権大会

佐賀律子 (3)

北信越学生テニストーナメント大会
全国学生テニス選手権大会

サッカー部

高木雅幸 (4)

他38名
第17回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会
第17回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

金沢経済大学同窓会 第1回ゴルフコンペ 開催結果報告

日時：平成5年6月6日(日)

場所：白山カントリークラブ
(松風コース)

参加者：10名



			GROSS	HCP	NET
優勝	小川	義昭	82	10.8	71.2
二位	川崎	孝司	88	11.9	76.1
三位	芝田	義則	92	13.0	79.0
ベスグロ	小川	義昭	82 (OUT41, IN41)		

地域経済界の担い手を育成する優秀な人材の登竜門

金沢経済大学

平成6(1994)年度 学生募集要項抜粋



学部	学科・定員	試験区分	募集人員	出願期間	試験日	試験場	試験科目	
経済学部Ⅰ部	経済学科 200名 商学科 150名	推薦入試	スポーツ 推薦	経済学科 約15名 商学科 約10名	10/18(月) ~10/28(木)	11/7 (日)	本学	書類審査 小論文 面接
			一般推薦	経済学科 約65名 商学科 約50名				
		一般人試	一次募集	経済学科 約90名	1/24(月) ~2/3(木)	2/13 (日)	本学 大阪 名古屋 東京 長岡	国語Ⅰ・Ⅱ (漢文を除く) 英語Ⅰ・Ⅱ
				商学科 約70名				
		二次募集	経済学科 約30名	3/ (火) ~3/10(木)	3/18 (金)	本学	国語Ⅰ・Ⅱ (漢文を除く) 英語Ⅰ・Ⅱ	
			商学科 約20名					
外国人留学生入試	若干名	1/18(火) ~1/31(月)	2/12(土)	本学	書類審査 小論文 面接			
経済学部Ⅱ部(夜間)	経済学科 100名	推薦入試	若干名	11/8(月) ~11/18(木)	11/28 (日)	本学	書類審査 小論文 面接	
		一般人試	一次募集	約80名	1/24(月) ~2/3(木)	2/12 (土)	本学	基礎学力試験 国語Ⅰ・Ⅱ (古文・漢文を除く) 英語Ⅰ・Ⅱ
			二次募集	約20名	3/1(火) ~3/10(木)	3/17 (木)	本学	基礎学力試験 国語Ⅰ・Ⅱ (古文・漢文を除く) 英語Ⅰ・Ⅱ

編集後記

日本経済の失速状況がいよいよ本物となり、日常生活の場面に影を落とし始めている。そして、政治の舞台も隆盛を極めてきた自民党が野党に転じて、その体質がどんかきさ・長老政治の悪弊がどんどん暴かれて来ているようである。この時に至り、激論を交わした学生時代の危機感をふっと思いついてみる。第Ⅰ回生、Ⅱ回生が経たれた70年代、日本が選択をせられた日米安全保障条約の改定期、政治と経済の将来を真剣に学ぶことでその一翼を担うことに身を投じた金沢経大生がやばり多数いた。いまや彼らが現在、この状況下での第一線にいる。はからずも、激動する時代の中で金沢経済大学がスタートし、既に八千五百名に及ぶ卒業生を世に送り出すこととなり、幾重とない伝統を築き上げていくことに深い感銘をおぼえている。故郷置繁先生の描かれた時代絵巻の中で在学学生、同窓生に課されたテーマはいったい何だろうかとの問い続けなければいけないのだらう。

先生のご冥福をお祈りし、追悼号となった「きずな」第四号をお届けします。

